

子供たちに伝えたい日本の良さ

今月のテーマ ～ 東京の伝統工芸品 ～

私たちが暮らす東京都では、毎日、情報やサービス、工業製品、農業製品等の様々なモノが生産されています。そのような中、長い年月にわたり引き継がれ、生産されてきた製品が数多くあります。今月は、東京都内で生産されている「多摩だるま（東京だるま）」と「村山大島紬」を採り上げます。

多摩だるま ～多摩地域の特産品～

だるまは、全国各地で親しまれており、祈願したことがかなった後に目を描き入れる風習がある、日本独特の縁起物と言えます。

多摩だるまは、江戸時代から多摩地区で生産されている手作りのだるまです。特徴は、顔が白いことです。ちなみに、群馬県の高崎だるまの顔は、肌色で描かれています。

かつて、多摩地域では養蚕が盛んに行われており、明治維新の中で横浜が開港すると、多摩地域で生産される生糸が横浜に運ばれ、海外に輸出されるようになりました。

八王子を経て横浜に至る生糸を運んだ道は、「浜街道」、後に「絹の道」とも呼ばれ、現在では国道16号線や鎌水峠^{やま}などに一部面影を残しています。

養蚕農家では、繭の仕上がりが良いようにということと、だるまの起き上がりとを掛け、だるまを養蚕のお守りにしていました。やがて蚕の起き上がりが家業の起き上がるにも結び付くようになり、商売繁盛、五穀豊穡^{じょう}などを願う祈願だるまへと変化しました。

現在、多摩だるまの生産者は少なくなり、瑞穂町、あきる野市、青梅市、立川市で8軒ほどになっています。生産する業者によって顔の表情、髭^{ひげ}などが異なり、年内に作られただるまは、翌年のだるま市で売られます。都内では、毎年1月に拝島大師（昭島市）、青梅だるま市（青梅市）、高幡不動尊（日野市）などで、3月には深大寺（調布市）でだるま市が行われています。



【多摩だるま】

現在、村山大島紬は、主に武蔵村山市、昭島市、瑞穂町で生産されています。村山大島紬の基となる織物は、江戸中期に創り出されたと言われています。当初は、木綿織物が織られていましたが、文化・文政（1804年～1840年）の頃になると、木綿かすりが作られるようになりました。その後、明治時代から大正時代にかけて、研究開発が進められて生産量が増えました。しかし、他の産地で低価格の木綿かすりが生産されるようになったことや、日露戦争後に絹織物の需要が高まったことに伴って、木綿かすりから絹織物の大島紬へと転換されていきました。昭和時代の初期になると、村山大島紬の技術の基礎が確立され、昭和42年（1967）に東京都指定無形文化財の指定、昭和50年（1975）には国の伝統的工芸品の指定を受けました。

この村山大島紬の最大の特徴は、板締め注入染色法という独特の技術で染められたかすり糸を用いることです。

板図案に沿って溝を彫った板に絹糸を巻きつけ、同様に溝を彫った板で挟み、きつく締め上げて染料を注ぎ、糸を染めあげ、丹念に手作業で柄を織りあげます。これによって繊細なかすり模様が生み出されています。

村山大島紬は伝統の技術を守り、全ての工程が手作業で行われる緻密な織物です。「トンカラリン、トンカラリン」と音を立てて手織り機で織られ、多くの時間を掛けて創られています。村山大島紬は、「着る人の心を織りなす」と言われています。今ではネクタイやトートバッグ、ペンケースなども作られています。

優雅な味わいが、村山大島紬の最大の魅力です。



【村山大島紬】



【村山大島紬 織機】



【板締め染色(平成22年撮影)】

身の回りの東京の伝統工芸品について調べてみましょう。

<どこで生産していますか、何というものですか>

<いつ頃から作られていますか>

<どのような課題がありますか>

東京の伝統工芸品が学べる施設

瑞穂町郷土資料館けやき館

- 【内 容】 瑞穂町の歴史や文化、自然について、学べます。
【利用時間】 午前10時から午後9時まで
【場 所】 瑞穂町大字駒形富士山316番地5
【電 話】 042-568-0634
【F A X】 042-568-0639
【入 場 料】 無料
【休 館 日】 第3月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始、臨時休館日
【交 通】 ・JR八高線「箱根ヶ崎」駅 下車徒歩20分、タクシー5分
・立川バス・西武バス・都営バス「箱根ヶ崎駅」下車徒歩20分
・西武バス「駒形富士山」下車すぐ
- 【ホームページ】 <http://www.mizuhokyodo.jp/>



武蔵村山市立歴史民俗資料館

- 【内 容】 「丘陵と台地が生む生命のあゆみ一人と自然の共生」をテーマに武蔵村山の歴史や「里山」と人々の暮らしを展示しています。
【利用時間】 午前9時から午後5時まで
【場 所】 武蔵村山市本町五丁目21番地の1
【電 話】 042-560-6620
【F A X】 042-569-2762
【入 場 料】 無料
【休 館 日】 第1月曜日、第3水曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
【交 通】 ・JR中央線「立川」駅から、立川バス箱根ヶ崎行き又は三ツ藤住宅行き「横田」下車徒歩10分
・JR八高線「箱根ヶ崎」駅から、立川バス立川駅北口行き「横田」下車徒歩10分
・西武拝島線「東大和市」駅から、都営バス青梅車庫行き「横田」下車徒歩10分
・多摩都市モノレール「上北台」駅から、市内循環バス「村山温泉かたくりの湯」下車徒歩1分
- 【ホームページ】 <http://www.city.musashimurayama.lg.jp/kankou/spots/rekishiminzoku/index.html>



村山織物協同組合

- 【内 容】 村山大島紬の工程紹介、展示、販売を行っています。
【利用時間】 午前9時30分から午後4時まで
【場 所】 武蔵村山市本町二丁目2番地の1
【電 話】 042-560-0031
【入 場 料】 無料
【休 館 日】 土曜日、日曜日、祝日、年末年始
【交 通】 ・JR中央線 立川駅（北口）下車 立川バス1番のりばから「箱根ヶ崎」「三ツ藤住宅」行きで「横田」下車
・JR八高線 箱根ヶ崎駅下車 立川バス「箱根ヶ崎」から「立川駅北口」行きで「横田」下車
都営バス「箱根ヶ崎」から「小平駅前」「東大和市駅前」行きで「横田」下車
- 【ホームページ】 <http://www.muraori.sakura.ne.jp/>



伝統・文化に関するイベント等

★ 都立中央図書館

- 東京都立中央図書館企画展示
「『東京』いまむかし～鉄道網の発達による賑わいの変遷～」

【内 容】 江戸当時の賑わいと、明治以降の鉄道網の発達により、東京各地に広がっていった賑わいの様子を、今昔の対比をしながら紹介していきます。東京の賑わいの魅力を是非感じてください。
【日 時】 平成30年1月20日（土）から同年3月11日（日）まで
（2月1日（木）、2月16日（金）及び3月1日（木）は休館）
午前10時から午後8時まで（土日は午前10時から午後5時30分まで）
【場 所】 都立中央図書館4階 企画展示室



調べ学習に
おすすめの
★

- 「多摩だるま」、「村山大島紬」に関する資料紹介

・「多摩だるま」大嶋一人／著 多摩のあゆみ69号 1992年11月発行 資料コード5020759020
多摩地方で販売される多摩だるま・東だるまは、瑞穂町、立川市、秋川市、青梅市の八軒の家が作って販売している。この八軒のだるまを白黒写真とともに紹介した本です。
・村山大島紬 都無形文化財指定40周年記念 平成19年度特別展解説書
武蔵村山市教育委員会／編 武蔵村山市教育委員会 2007.10
請求記号T/78・586/5001/2007 資料コード5014654730
村山大島紬の沿革、技法や道具、模様の変遷、製品を1冊にまとめたもの。写真は白黒です。
※ 請求記号や資料コードをお伝えいただくと、本を簡単に探すことができます。

★ 生活文化局

- 能楽の水鏡—映像に映すイマジネーション—

【内 容】 能の鑑賞の際、必要とされる「イマジネーション」を助けるため、伝統的な能のスタイルは守りつつ、その描かれている風景や意味を舞台に映像として投影し鑑賞をサポートします。より演目をお楽しみいただけるよう、上演前にはアーティストと宝生宗家によるトークショーを開催します。
普段間近で見ることの出来ない貴重な能装束の展示、「羽衣」口語訳・イラスト・まんがなどを盛り込み分かりやすく能を解説したパンフレットなど、伝統芸能になじみのない方にも楽しんでいただけます。
【日 時】 平成30年2月12日（月・振休）午後2時
【場 所】 日経ホール 住所：千代田区大手町1-3-7
【料 金】 一般 1等席3000円、2等席2500円 学生 1等席2500円、2等席2000円
【ホ-ムペ-ジ】 <https://www.artscouncil-tokyo.jp/ja/events/19132/>

★ 産業労働局

- 第61回東京都伝統工芸品展

【内 容】 東京都の職人が製作した伝統工芸品の展示・販売や職人による実演、来場者も伝統工芸の技にチャレンジできる製作体験を実施します。
【会 期】 平成30年1月18日（木）から同月23日（火）まで（6日間） 午前10時から午後8時まで
※ 19日（金）と20日（土）は午後8時30分まで、最終日23日（火）は午後6時まで
【会 場】 新宿高島屋11階 催事場 住所：渋谷区千駄ヶ谷5-24-2
【ホ-ムペ-ジ】 <http://www.tokyo-kosha.or.jp/topics/1611/0006.html>

【テーマにおける引用・参考文献資料、写真提供】
・ 瑞穂町郷土資料館けやき館 <http://www.mizuhokyodo.jp/>
・ 武蔵村山市教育委員会教育部文化振興課歴史民俗資料館

※ 本資料に対する御意見・御感想、本資料の活用実践等がありましたら、右記担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきます。

【担当】 東京都教育庁指導部指導企画課
電 話 03-5320-6869
ファクシミリ 03-5388-1733